

| | | | |
|--|--|---|--|
| 館の共通目標 | 開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。 | | |
| 細事業別目標【展覧会】 | 中核的なパブリックアート事業となる岡本太郎作品を広く知ってもらおう展覧会と、実績ある美術館との連携事業によって発信と専門性を高める。 | | |
| 展覧会名称 | Art Meets 05 菊池敏正/馬場恵 | 横堀角次郎とその仲間たち | 岡本太郎と『今日の芸術』絵はすべての人が創るもの |
| 会期・日数 | 2018/3/17-2018/5/19 /51 | 2018/3/17-2018/5/29 /51 | 2018/10/5-2019/1/14 /81 |
| 場所 | ギャラリー1 | 地下ギャラリー | 全ギャラリー |
| 学芸担当者 | 吉田 | 辻 | 忠 |
| 記入日 | 2017/12/9 | 2017/12/11 | 2018/7/16 |
| 【目的・目標】 ・何をやりたいか。 ・ビジョン、波及効果 | 古典技法による木彫の菊池敏正と旧来からある銅版画技法を軸に、ミクストメディアで制作する馬場恵による、それぞれの技巧の面白さと、親しみやすい展覧会をめざす。 | 横堀角次郎の画業を振り返り、横堀の画家としての位置を探る。 | 広瀬川畔への《太陽の鐘》の移設に伴い、岡本太郎を紹介することで中心市街地地域全体の活性化につなげるとともに、新しい切り口で太郎を紹介することにより全国の岡本太郎ファンにアーツ前橋の活動を周知する。 |
| 【②内容・活動】 事業の概要 | 数理模型をモチーフに、古典技法を用いて彫刻作品をつくる菊池敏正と、植物の生態をモチーフに、植物標本の作品を版画で制作する馬場恵を紹介する。 | 大胡町出身の横堀角次郎の画業を振り返り、ともに歩んだ仲間たちの作品を加える | 『今日の芸術』から読み取れる岡本の思想を検証するとともに、活動の軌跡をさまざまな作品や資料によって紹介する。 |
| 主な取り組み【手段】 ・広報戦略 ・新たな試み | 1.親子向けのワークショップを計画する。 | 1.ゲストキュレーターを立てて、より専門性の高い展覧会とする。 2.広報前橋で横堀作品を探していることを告知(7/15号) | 1.岡本太郎研究者・春原史寛氏を監修者に迎えて展示を構成。 2.関係各所と連携し、《太陽の鐘》移設について紹介。 3.文化人を迎え岡本太郎を知るシンポジウムを実施 |
| 【③結果】 数値目標 | 5,500人 (うち4/1以降 4,400人) | 4,000人 (うち4/1以降 3,500人) | 8,100人 (外 シンポジウム1,000人) |
| 入場・参加者数 | 85%(満足+やや H25:83.8%、H26:78.5%、H27:81.6%、H28:82.7%) 65%(満足のみ H25:40.5%、H26:45.7%、H27:56.7%、H28:61.2%) | | |
| 展覧会満足度 | | | |
| 質的(定性)目標 | 中堅作家を紹介して活動を支援し、知名度が向上する。 | 地域作家の業績を振り返り、纏め上げて次の世代に繋げる。 | 《太陽の鐘》設置との相乗効果をねらい、太陽の鐘とアーツ前橋それぞれの来訪者を増加させる。 |
| 【④成果】 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい | ターゲット:若者、美術になじみのない方 1. 新たな観客の獲得 2. 現役作家による、自然観察・描写の多様な見方を紹介する。 3. 二人の作品を通して、木彫の古典技法や、江戸期から始まった植物画の面白さを紹介。 | ターゲット:県内、美術愛好者 1. 地域作家の紹介 2. 所蔵品の文化的価値の提示、再評価 3. 岸田劉生など著名画家を紹介 | ターゲット: 近隣住民、全国の岡本太郎ファン全般 1. 岡本太郎ファンを中心とした新たな観客の獲得 2. 官民学が行っている地域活性化へ向けた活動を広く周知する。 3. 誰にでも開けた美術館としての活動を周知する。 |
| 特記事項 ・助成 ・委員会形式 ・巡回展 | | | ・自治総(シンポジウム助成) ・実行委員会形式 |

■備考 定員設定の無いイベントは含まない → イベント参加率は、個別評価に併せて削除(9/9)

展覧会満足度: アンケートに、「満足」、「やや満足」と記入があった割合とする。未記

岡本太郎と『今日の芸術』 絵はすべての人の創るもの

岡本太郎は戦後に数多くの芸術論を残し、とりわけ1954年の著作『今日の芸術』は、創造的に生きるための入門書として、美術書としては異例のベストセラーとなりました。本展では、太郎が『今日の芸術』以降、戦後社会に与えたインパクトを検証します。

【会 期】 2018年10月5日(金)～2019年1月14日(月) 81日間

※会期中、一部展示替えあり

【開館時間】 11:00～19:00(入場は18:30まで)

【休 館 日】 水曜日、年末年始(12月28日(木)～1月4日(木))

【会 場】 アーツ前橋(群馬県前橋市千代田町5-1-16)

【観 覧 料】 一般 600円 / 学生・65歳以上・団体(10名以上) 400円 / 高校生以下 無料

※アーツ前橋1階ギャラリーは無料。

※10月5日(金)～30日(火)はアーツ前橋の開館5周年を記念して入場無料。

※1月7日(月)は太郎の命日のため入場無料。

※障害者手帳等をお持ちの方と介護者1名は無料

※以下のいずれかの条件に該当の方は、観覧料が400円

1) トワイライト割：17時以降にご来場された方

2) 太陽の鐘割：携帯電話やカメラで「太陽の鐘」を撮影した写真を受付で提示した方

【主 催】 前橋岡本太郎展実行委員会

【共 催】 アーツ前橋

【助 成】 自治総合センターシンポジウム助成金

【後 援】 上毛新聞社、朝日新聞社前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、産経新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、日本経済新聞社前橋支局、共同通信社前橋支局、時事通信社前橋支局、NHK 前橋放送局、群馬テレビ、FM GUNMA、まえばし CITY エフエム、前橋商工会議所、総務省

【出品作家】 岡本太郎／赤瀬川原平／アンリ・マティス／池田龍雄／北代省三／篠原有司男／関口光太郎／高松次郎／立石大河亜／パブロ・ピカソ／ヤノベケンジ／横尾忠則ほか

【主な出品作品】



【図1】岡本太郎《コントロールポアン》 1935/53年 東京国立近代美術館蔵



【図2】岡本太郎《足場》1952年 一般財団法人草月会蔵（東京都現代美術館寄託） ©内田芳孝

【関連イベント】

① 岡本太郎をいま考えるシンポジウム

岡本太郎の研究者や、彼に影響を受けた文化人たちをゲストにお招きし、シンポジウムを行います。

日時：10月7日(日) 14:00～17:00

会場：前橋テルサ2階ホール（群馬県前橋市千代田町2丁目5-1）

ゲスト：山下裕二（美術史家、明治学院大学教授）ほか

② 記念講演会「岡本太郎と読む『今日の芸術』」

日時：11月11日(日) 14:00～16:00

ゲスト：春原史寛（本展監修者）

会場：アーツ前橋地下ギャラリー

③ 学芸員によるギャラリー・ツアー

日時：10月21日(日)、11月17日(土)、12月15日(土) 14:00～14:30

会場：アーツ前橋 ギャラリー

④ 前橋に《太陽の鐘》が鳴る

前橋市の広瀬川河畔に設置された《太陽の鐘》を鳴らします。

日時：12月2日(日) 13:00～14:00

定員：先着100名

⑤ ロビーライブ vol.18 エレクトロニックミュージック

アーツ前橋で行う小さな音楽ライブ。

日時：12月9日(日) 14:00～14:40

ゲスト：Aalko aka Akiko Kiyama

会場：アーツ前橋 交流スペース

⑥ おしゃべりアートデイズ

作品について気付いたこと、感じたことを自由に話しながら鑑賞します。

日時：12月3日(月)～9日(日)

⑦ 映画館で太郎に出会う

岡本太郎が自ら出演し、また登場するキャラクターデザインを行った映画を上映します。

上映作品：『宇宙人東京に現わる』（監督：島耕二、1956年）／『誘惑』（監督：中平康、1957年）

会場：前橋シネマハウス（アーツ前橋と同じ建物3階）

※詳しい上映情報はアーツ前橋 HP へ

- 同時上映『太陽の塔』（監督：関根光才、2018年）

【出版物】

本展覧会の記念図録を出版します。出版当初の判型にちなんだ片手に収まる判型で、出品作品・資料の図版ほか、岡本太郎研究者らによる『今日の芸術』の解題、ゲスト執筆者によるエッセイ、ブックガイド等を収録。

発行：現代企画室

定価：未定（1000 円前後）

部数：1600 部以上

仕様：新書版、176 頁

装丁・デザイン：鈴木成一デザイン室

執筆者：石井匠／岩田ゆず子／大杉浩司／小金沢智／春原史寛／忠あゆみ／成相肇／
横尾忠則 ※五十音順

発行日：10 月上旬、現代企画室より全国発売

【キーワード・キーセンテンス】

かつて「芸術」は、大へん高遠なもので、だれにでも理解できるとは考えられていませんでした。特権階級や専門家たちの独占物だったのです。しかし、ようやくそのワクはふみ破られて、およそ芸術などとは無縁だと思われていた一般の人びとの生活に、ひろく食い入り、深くしみこみはじめています。

しかも今日、芸術は新しい形式を創りあげることによって、かえって真に人間の根源的なよろこびをとりもどし、いまだかつて見られなかった自由と強烈さを誇っています。

芸術にたいする自覚によって、自由と、生きる喜びとをつかみとり、すべての精神が明朗な自信をもって現実にぶつかり、それをのり越えて、たくましくうちひらけてゆくことを期待します。

平成30年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【地域AP・文化支援】 事前記入(ねらい)

| | | | | |
|---|--|---|---|---|
| 館の共通目標 | 開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。 | | | |
| 細事業別目標 【文化支援／普及事業】 | 引き続き実施内容の効果的な発信の仕方を工夫し、外部の連携組織との円滑な事業実施を目指す。 | | | |
| 事業名称 | 滞在制作(海外) | 滞在制作(群馬県ゆかり) | 前橋まちなかアーツ助成 | つまずく石の縁 地域に生まれるアートの現場 |
| 時期・日数 | (1)2018年6月～8月頃 60日程度 (2)2018年11月～2019年1月頃 60日程度 | (1)2018年9月～10月頃 30日程度 (2)2019年2月～3月頃 30日程度 | 2018年10月12日～11月4日 | 2018年10月～11月 12日間 |
| 場所 | 堅町スタジオほか | 堅町スタジオほか | 中心市街地各所 | 中心市街地各所 |
| 学芸担当者 | 五十嵐 | 五十嵐 | 五十嵐 | 五十嵐 |
| 記入日 | 2018/3/23 | 2018/3/23 | 2018/7/15 | 2018/7/15 |
| 【目的・目標】 ・何をやりたいか。 ・ビジョン、波及効果 ・質的(定性)目標 | 多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。また、海外のアーティストの目を通して地域資源の発掘につなげる。前橋で制作された作品が海外で発表される。地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。 | 作家の創作活動支援。市内・県内での活躍の場を広げることを目指す。東京などの人口集積地や、自分に地縁のある場所だけにとどまらない発表の場の創出とそのネットワークの形成を目指す。 | ・市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出 ・まちなかで活動する芸術文化団体等への支援及び相互の交流機会の創出 ・まちなかの回遊性の向上によるにぎわいの創出 ・市内を中心に文化活動を続ける団体・個人とのネットワーク形成 | ・滞在制作は成果が見えにくい特性があることから、事業内容をPRする絶好の機会とする。 ・滞在中に作品のすべてが完成するものではなく、アーティストの滞在制作後の活動が加味されて評価できることから、その波及効果を測定する。 ・中心市街地の各所を会場とし、回遊性の向上とリピーターの獲得に繋げる。 |
| 【②内容・活動】 事業の概要 | 国内外で活躍する外国人作家を招聘し、滞在制作活動を行う。 | 群馬県にゆかりのある作家に対し、地元での制作環境を支援するため、滞在制作を行う。 | 過去4年実施してきた、まちなかで活動している芸術文化団体への助成。めぶくフェス(アート部門)との役割分担を踏まえ、より芸術活動に主軸をおいて継続的(3年以上の実績)に活動する団体・個人を支援する。 | 開館5周年にあわせ、滞在制作の拠点である「堅町スタジオ」を拠点にして創作活動を行ったアーティストによって、中心商店街の空き店舗や施設を活用して、展示を行う。 |
| 主な取り組み ・広報戦略 ・新たな試み | アジアを中心とした地域のアーティストを招聘し、地域の外国人との交流を生む。 | 年齢の枠を設け、若手の支援も行う。演劇などの美術以外の多様なジャンルの受け入れを行う。 | ・参加者ミーティングの実施によるプレイヤー相互の理解、相乗効果による発信 ・助成金申請額を最低1万円に設定し、柔軟に対応 ・めぶくフェス(アート部門)との役割分担 | パスポート制をPRしてリピーターの獲得に繋げる。 8カ国の作家が参加することから、ワールドワイドな発信を行う。 中心商店街からのアプローチで対象者を抽出する。 外国人学校への積極的な広報を行う。 |
| 【③結果】数値目標 | 招聘アーティスト数 2組 | 招聘アーティスト数 2組 | 支援対象団体数 10組 | 参加アーティスト数 10組 |
| 指標1 | 2組 | 2組 | 10組 | 10組 |
| 指標2 | イベント回数 2回 | イベント回数 2回 | イベント回数 20回 | イベント日数 3回 |
| 指標3 | 参加者数 200名 | 参加者数 200名 | 入場者数 1000名 | 参加者数 1000名 |
| 【④成果】 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい | ターゲット:近隣住民、市内 ①地域資源の発掘 ②海外での発信 ③多文化交流の機会創出 | ターゲット:近隣住民、県内 ①幅広い表現者の紹介 ②館外活動により、幅広い層への活動紹介 | ターゲット:若者、近隣在住者 ①まちなかイベントの創出 ②芸術文化に関わる人材の増加 | ターゲット:近隣住民、外国人 ①滞在制作事業の意義が認知され、理解が進む。 ②多文化交流によって街なかで活動する人々同士の、国際的な相互理解が深まる。 ③中心商店街を拠点とする新たなプレイヤーの創出に繋がる ④海外におけるマエバシの認知向上 |
| 特記事項 ・助成 ・委員会形式 | アートによる文化交流推進実行委員会 助成:文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業 | アートによる文化交流推進実行委員会 助成:文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業 | アートによる文化交流推進実行委員会 | アートによる文化交流推進実行委員会 助成:一般財団法人 自治総合センター |

備考
定員設定の無いイベントは含まない

地域アートプロジェクト 滞在制作事業

【進捗状況】

平成 30 年度は、海外在住アーティスト 2 名、公募により選定した群馬県にゆかりのあるアーティスト 2 組を招聘する。

(1) 海外在住のアーティストによる滞在制作事業

平成 26 年度より、海外在住のキュレーター、アーティストに候補作家を推薦していただき、アーツ前橋内で選定している。下記の 5 名の推薦委員より推薦された 16 名のアーティストの中から選定した。

■ 推薦委員

ポーリン・ヤオ (M+キュレーター／香港)、クウォン・ジン (キュレーター／韓国)、照屋勇賢 (アーティスト／アメリカ在住)、かないみき (アートジャーナリスト／ドイツ在住)、ソービン・ヤップ (キュレーター／マレーシア)

ゲートゲンス・ヒルシュ gaehtgens.hirsch

ドイツ出身で、現在はベルリンを拠点に 2 人組で活動するデイビッド・ゲートゲンス (2012 年よりコラボレーション開始したデイビッド・ゲートゲンスとダニエラ・マリア・ヒルシュ) を月 18 日から招聘し、現在滞在制作中である。初めてのアジア地域での滞在と作品制作となるため、広く様々なリサーチを行っている。最終的にはオープンスタジオとアーティストトークを実施する予定。

□リサーチ期間：平成 30 年 5 月 16 日から平成 30 年 5 月 21 日まで (6 日間)

□滞在制作：平成 30 年 7 月 18 日 (日) から 8 月 30 日 (予定)

□滞在場所：豎町スタジオ

□アーティストプロフィール

ダニエラ・マリア・ヒルシュ (1973 年生まれ、ブルク＝ギーピヘンシュタイン美術大学卒業／ザール) とデイビッド・ゲートゲンス (1973 年生まれ、ケルン・メディア芸術大学卒業) は、2012 年から gaehtgens.hirsch としてコラボレーションを開始。現在は、ベルリン (ドイツ) を拠点に活動。2012 年より、ドイツ、ラトビア、イタリア、アメリカでの展示のほか、ザクセン・アンハルト州とドイツ工業連盟からの助成金を取得。ケーパー基金賞 (ドイツ論文賞) 受賞。ベローナ大学を通じて、2018 年テキストをベースとして研究物を出版。

スン・テウ Sung Tieu

□リサーチ滞在：2018年9月1日（土）から10日（月） 10日間 ※予定

□招聘期間：2018年11月中旬～2019年1月中旬 ※予定

□アーティストプロフィール

1987年にベトナムで生まれ、幼少期にドイツに移住する。スンは家族が1980年代後半の東側諸国とベルリンの壁の崩壊とその変遷を経験しているヨーロッパに住む若いベトナム人ディアスポラアーティストの一人である。ファッションや広告、映画などと芸術を融合させるように作品を制作している。イギリス、ドイツ、メキシコ、スペイン、ベトナムなど様々な地域で展覧会に参加し、2017年バーゼルのアートバーゼルステートメントに特集された。

(2) 群馬県ゆかりのアーティストによる滞在制作事業

群馬にゆかりのあるアーティストに対し、地元での制作環境を支援することを目的に、平成27年度から「群馬県にゆかりのあるアーティスト」に条件を絞って公募を行っている。

平成30年度は、前年度に引き続き「プログラムA（30歳以下）」を新設し、以前から実施している年齢制限無しを「プログラムB」として募集した。審査員4名による厳正な審議を行った結果、残念ながらプログラムAは「該当者なし」となった。そのため、プログラムBから2組選出し、平成30年度招聘アーティストは、尾花賢一氏と羽山まり子氏に決定した。

■ 審査概要

応募期間：2018年2月23日（金）～3月31日（土） ※当日消印有効

審査会：2018年4月19日（木）

応募件数：22件

審査員：岡部あおみ（美術評論家／パリ日本文化会館展示部門アーティストティックディレクター）／白川昌生（アーティスト）／田中龍也（群馬県立近代美術館 学芸員）／住友文彦（アーツ前橋 館長）

■ 招聘アーティスト

羽山 まり子 HAYAMA Mariko

□招聘期間：2018年9月7日（金）～11月7日（水） ※予定

□アーティストプロフィール

1983年千葉県生まれ。2010年女子美術大学大学院修士課程修了。大学院時代にわたらせ渓谷鐵道沿線で行われている「WATARASE Art Project」(栃木/群馬)に携わる。自分が関わった社会から集めたエレメントを「ラッピング」「刺繍」などの手法でつなぐインスタレーションを展開。「場と記憶をつなぐ「関係」の形象化」を試みている。主な個展に2013年「羽山まり子展-マイホーム-」LIXIL ギャラリー (東京)、2010年「複合回路 vol4 羽山まり子展」gallery αM (東京) など。2011年「川口の新鋭作家展」最優秀作家賞受賞。

尾花 賢一 OBANA Kenichi

□滞在期間 : 2019年2月初旬から3月下旬を予定

□滞在场所 : 豎町スタジオ

□アーティストプロフィール

1981年群馬県生まれ。2006年筑波大学大学院芸術研究科洋画コース修了。主な個展に、2018年「森の奥、そして -前編・後編-」hpgrp GALLERY TOKYO (東京)、2017年「森の奥、そして」アトリオン 秋田総合生活文化館・美術館 (秋田) など。主な受賞に、2015年Tokyo Midtown Award 2015 優秀賞、2014年LUMIN meets ART AWARD 準グランプリ、など。

前橋まちなかアート助成

概要

アート前橋はこれまで4年間にわたり、前橋まちなか文化祭（通称：まちフェス）、めぶくフェス（アート部門）において、まちなかで活動している芸術文化団体のみなさまへの助成を実施してきました。このような中で、多様な文化の担い手となる方たちのまちなかにおける活動が増える環境が整いつつあります。今年度より、昨年度に開催された「めぶくフェス（アート部門）」との役割分担を踏まえ、より芸術活動に主軸をおいて継続的に活動する団体・個人を支援する制度として「前橋まちなかアート助成」を開始します。10月12日（金）～11月4日（日）の期間中に、中心市街地及びその周辺で実施する芸術文化に関連する企画を広く募集し、採択団体には上限10万円の事業助成を行います。

事業目的

- ・市民が様々な芸術文化に触れる機会の創出
- ・まちなかで活動する芸術文化団体等への支援及び相互の交流機会の創出
- ・まちなかの回遊性の向上によるにぎわいの創出

□応募期間：2018年6月29日（金）～7月27日（金）

□応募条件：（1）実施事業に関する広報物等を制作し事業実施1か月前までに300部を提出すること。

（2）広報物には必ず「前橋まちなかアート助成」の表記をすること。

（3）市内での活動実績が3年以上あること。

（4）今後も継続した活動が見込まれること。

（5）当該事業の目的を理解し、これに沿った事業内容を実施する団体であること。

（6）10月12日（金）～11月4日（日）の会期中に中心市街地で事業を実施すること。 など

□支援内容：（1）最大10万円の助成金の交付

（2）参加者同士の交流機会の創出

（3）企画に関する相談受付

アーツ前橋開館5周年記念

つまづく石の縁 - 地域に生まれるアートの現場 -

企画概要

“道でつまずいた石さえもその人といくらかの因縁があるということ。どんなつまらないことや関係でも大事にしなければならないというたとえ。”（ことわざ：躓く石も縁の端 『故事・俗信 ことわざ大辞典』より）

偶然の何気ない出会いが、現在の自分を作り上げる不思議な縁の一つとなるように、滞在制作におけるアーティストの作品も、想像しなかった発見や出会い、偶然によって変化していきます。ときに期待とは逆に進んでしまうことや不測の出来事も、それぞれの手法で解決し、変更を加える身のこなしは、言葉や文化を越えて、他者と共に生きる知恵として、また見慣れた景色にも新たな視点を与えてくれます。「地域」をひとつの結び目として、それぞれのアーティストがつなげた縁が、緩やかに、きっとあなたにもつながっています。

アーツ前橋の滞在制作事業においては、作品の完成をゴールとせず、滞在期間中はリサーチに多くの時間を費やすことから、作品は滞在制作終了後に完成され、国内外の様々な地域の展覧会などで展示されています。前橋で生まれ、様々な国や地域で発表されてきた作品を見るまたとない機会となります。また本事業は、アーツ前橋の開館5周年にあわせ、滞在制作においてアーティストの活動拠点となる「豎町スタジオ」の立地する中心市街地の商店街組合と協力して開催します。過去に滞在制作を行ったアーティストの中から10組が、生活の中心となった商店街の店舗などを使って展示を行うことで、商店街の活性化につながる機会創出を目指すとともに、より身近にアートを楽しめる地域に根差したアートの在り方を提示します。

□展覧会名 アーツ前橋開館5周年記念 つまづく石の縁 - 地域に生まれるアートの現場 -

□英題 Unexpected encounter - Artist in residence Maebashi 2015-2018

□会期 2018年10月12日（金）～11月4日（日） ※会期中の金土日のみ 12日間

□開館時間 11:00～18:00

□会場 前橋中心商店街、ほか

□入場料 600円 ※会期中何度でも使えるパスポート制、特別書籍（B6サイズ/110ページ程度）。

□主催 アートによる文化交流推進実行委員会、前橋中心商店街協同組合

□共催 前橋市

□助成 一般財団法人 自治総合センター

□協力 共愛学園前橋国際大学、前橋工科大学、群馬大学、日本語アカデミー（予定）

□後援 イスラエル大使館、前橋商工会議所

□参加作家 ヘヴン・ベク（韓国、2014年滞在）

片山真理（日本、2014年滞在）

木村崇人（日本、2015年滞在）

ダラ・リーヴス（イギリス／ドイツ、2015年滞在）

萩原留美子（日本／オランダ、2015年滞在）

梅沢英樹（日本、2016年滞在）

アンナ・ヴィット（オーストリア／ドイツ、2017年滞在）

ケレン・ベンベニスティ（イスラエル／アメリカ、2017年滞在）

衣真一郎（日本、2017年滞在）

イルワン・アーメット&ティタ・サリナ（インドネシア、2017年～2018年滞在）

羽山まり子（※2018年9月～10月 滞在アーティスト）

□関連イベント

①アーティストトーク

日 時：10月12日（金） 15:00～16:00

内 容：参加アーティストによるトークイベント行います。

出 演：ヘヴン・ベク、イルワン・アーメット&ティタ・サリナ、萩原留美子、
ケレン・ベンベニスティ（※予定）

参加費：無料／【要申込】

会 場：前橋シネマハウス シアター1（仮）

②梅沢英樹 ライブ

日 時：11月4日（日） 13:00～14:00

内 容：電子音楽家として活動も行う梅沢英樹によるライブを行います。

出 演：梅沢英樹（参加アーティスト）、上村洋一（アーティスト／※予定）

参加費：無料／【申込不要】

会 場：オリオン通り

③「つまづく石の縁」ガイドツアー

日 時：10月20日（土）、10月28日（日） 13:00～14:00

内 容：街をよく知るゲストとともに街歩きをしながら、アーツ前橋学芸員が作品を解説します。

講 師：臼井 敬太郎（前橋工科大学講師／20日）、橋本薫（建築家／28日）

参加費：無料 要パスポート／【申込不要】

集 合：アーツ前橋 総合案内前

平成30年度 アーツ前橋 事業企画一覧表【教育普及等】 事前記入(ねらい)

| | | | |
|---|---|---|--|
| 館の共通目標 | 開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。 | | |
| 細事業別目標 【文化支援／普及事業】 | 引き続き実施内容の効果的な発信の仕方を工夫し、外部の連携組織との円滑な事業実施を目指す。 | | |
| 事業名称 | 学校連携事業 (スクールプログラム) | あーつひろば | アーツナビゲーター研修 |
| 時期・日数 | 4回(4校)程度 | 5月、8月、10月、11月、1月、3月 | 7月～3月 6回 |
| 場所 | 市内小中高学校 | スタジオ・交流スペース | スタジオ・ギャラリー |
| 学芸担当者 | 山田 | 山田 | 辻 |
| 記入日 | 2018/7/13 | 2018/7/13 | 2018/7/19 |
| 【目的・目標】 ・何をやりたいか。 ・ビジョン、波及効果 | 学校生活の中で質の高い芸術に触れ、アーティストとの交流を行いながら児童・生徒の表現力やコミュニケーション能力を育成する。 | 1.サポーターやアーティストによる多様な芸術体験を通して、アーツ前橋への来館促進を行い、将来の自主的な鑑賞者を育成する。 2.サポーターが企画・運営のノウハウを身につける | 美術鑑賞は敷居が高いと思っている人たちが作品や作家についての知識を得ることが作品鑑賞だと考える人に、自分の眼で作品鑑賞する楽しさを知ってもらおう。 |
| 【①投入】 予算 | 1,040千円 | 900千円 | 460千円 |
| 【②内容・活動】 事業の概要 | 1.アーティスト・イン・スクール：アーティストの学校への派遣 2.教員向け広報物作成、無料招待ウィーク：児童生徒とのつながり手である教員向けに広報を行い、アーツ前橋の事業への理解を促す | サポーター等と協働しながらアーツ前橋に親しみ、多様な芸術に触れるワークショッププログラムを実施 | 来館者と一緒に対話しながら作品鑑賞をするファシリテーターの育成。作品研究の方法や、ガイドプランの作成や、実践でのコーチングを行いながら、情報提供型のファシリテーションを学ぶ。 |
| 主な取り組み ・広報戦略 ・新たな試み | 実施予定校を前年度に調整し、決定する | キッズフェスタ等まちなかの大規模イベントと連携し、広報活動を効果的に行う | 展覧会会期中に「おしゃべりアートデイズ」を実施し、来場者とともに作品鑑賞ツアーを行う。公民館などに参加者を呼びかける。 |
| 【③結果】 数値目標 | 実施校数 4 | 実施回数 大規模：3回 小規模：3回 | 自主研修回数 15回 |
| 指標1 | 参加者数 学校規模による | 参加者数 450人 | おしゃべりアートウィーク 200人 |
| 指標2 | | | 受講継続数 10人 |
| 指標3 | | | |
| 質的(定性)目標 | 教育現場との連携が強化され、アーツ前橋が美術教育の中核施設としても認知が図られる。 | アーツ前橋の初来館のきっかけとし、リピーターや他のプログラムへの参加者が増える | 1.研修生のスキルアップ 2.研修以外での自主練習や自主的な活動を行う組織の土台づくりをする |
| 【④成果】 期待に対する結果 ・観覧者(参加者)層 のターゲット ・ねらい | ターゲット：小学校～高校の児童・生徒 1.児童・生徒が現代美術の表現の多様さを知る 2.アーティストと活動を行うことで、表現力が身につく | ターゲット：アーツ前橋に来館したことのない親子(隣接施設利用者等) 1.初めて来館して造形活動や鑑賞を体験しながら、アーツ前橋は自己や他者の表現が認められる場所であることを理解する 2.サポーターが企画や運営へ継続的に関わる。 | ターゲット：事業主旨を理解し、アートやコミュニケーションが好きな人 ・アーツナビゲーターのスキルアップと、研修後も自主的な活動を行い、展覧会ごとに「おしゃべりアートデイズ」を実施できるような組織作り |
| 特記事項 ・助成 ・委員会形式 | | | |

スクールプログラム

■アーティスト・イン・スクール

(1) 概要

アーティストを学校へ派遣して授業やワークショップ等を行う事業。平成 28 年度より 2 年間を通して、小中学校、ならびに部活動や空き教室滞在型のプログラムなどを行ってきた。今年度は 2 年間の事例を踏まえ、さらなるアーティスト・イン・スクールの可能性を検討していく。事業実施に当たっては NPO 法人まえばしプロジェクトがコーディネートを行い、当該 NPO のもつ教育の専門性やネットワークを活かしながら事業を実施する。

(2) 進捗状況

アーティストを学校へ派遣して授業やワークショップ平成 30 年はこれまでの実績を踏まえ、継続 2 組、新規 2 組の計 4 組のアーティストを派遣する。

今年度派遣アーティスト候補

・住中浩史（すみなか・ひろし）

1977 年生まれ、広島県広島市出身。明治大学商学科商学部。近年は、表現の専門家のためでない『場』づくりをメインに活動。色々な人が『何かしたくなる』アフォーダンスのある『場』と『出来事』を創出し、その『場』が時間をかけて使われていく中で、小さくとも新しい地域の文化が生まれることを目指している。

▷派遣先学校：第六中学校、東中学校、わかば小学校（予定）

▷派遣時期：2 学期～2 月ごろまで 定期的に訪問

・中島佑太（なかじま・ゆうた）

1985 年群馬県前橋市生まれ。幼少期を郊外型団地で過ごしたもと野球少年。野球っぽいから、という理由でワークショップを始める。2016 年にアーツ前橋、群馬大学の学生たちと旅をテーマにしたワークショップユニット「LDK ツーリスト」を立ち上げ、南橋団地でワークショップを行う。

▷派遣先学校：桃川小学校 5 年生（継続）

▷派遣期間：10 月 15 日～3 月まで

・イルワン・アーメット&ティタ・サリナ（インドネシア）

ジャカルタ（インドネシア）を拠点に活動。ジャカルタ・インスティテュート・オブ・アートでグラフィックデザインを学び、アーメット・サリナ スタジオデザインを設立。2010 年から公共

空間における都市問題や社会的・政治的問題を創造的な資源としてアートプロジェクトとして扱う。

▷派遣先学校：桃井小学校 2年生

▷派遣時期：10月中旬

・水川千春（みずかわ・ちはる）

1981年大阪生まれ。2006年～2014年まで移動生活。廃墟やアートプロジェクトなど、多数の滞在レジデンスに参加。国内外で展示多数。主な代表作として、自身の残り湯、温泉、雨、川、海などの水を使ったあぶりだし絵の作品。その他、残り湯でつくられる生のジュエリーシリーズなど。ライブであぶりだすパフォーマンスや、音楽や舞台とのコラボも行う。

▷派遣先学校：勝山小学校

▷派遣時期：未定

■先生のための無料招待ウィーク

(1) 概要

指定する期間中に来館した教員は、無料で展覧会を観覧できるプログラム。アーツへの来館を促進することにより、多くの児童及び生徒へ芸術文化に親しむ機会を創出する。また、今後の運営の参考にするため、プログラムを利用した教員にはアンケートを依頼する。

(2) 実施計画

- | | |
|---------|----------------------------|
| ・昭和の肖像展 | 招待期間：7月21日（土）～8月5日（日） |
| ・岡本太郎展 | 招待期間：なし。ただし10月は開館5周年記念で無料 |
| ・闇に刻む光展 | 招待期間：2019年2月9日（土）～2月17日（日） |

■あ一つひろば

(1) 概要

これまでアーツに来たことが無い人や、近隣施設を利用する親子連れを対象に、アーツ前橋に親んでもらう門戸として開催。子ども向けのワークショップや創作物をガラス張りの交流スペースを利用して実施することで、外から関心を引き込み、アーツへ気軽に入ってもらうことを目的とする。また、アーツサポーターが主体的に企画や運営を行うことで、継続的にアーツに関われる場として機能している。

(2) 進捗状況

【第1回】 日時：5月12日(土) 13:00~17:00

場所：交流スペース、スタジオ

参加者数：56名/サポーター参加：12名

実施したプログラム：

- ・サポーター祭り→サポーターが企画した3つのプログラム(「自分のすみたいまちを作ろう」「親子で作ろう!紙の服アート!」「アーツの窓に花畑を描こう」)を開催。
- ・ウマくなくてもいいスタジオ→制作素材だけを提供し、子どもたちが自主的に創造を行う場を設ける。
- ・こどもアート探検→子どもたちがアーツナビゲーターとともに展覧会やコミッションワークを話しながら見て回る。

【第2回】 日時：8月18日(土) 13:00~17:00

場所：交流スペース

実施するプログラム：毎年秋に行われる駅家ノ木馬祭で使用するハンディ木馬の制作とその展示。ウマくなくてもいいスタジオ。こどもアート探検。

【第3回~】アーティストによるワークショップの他、クリスマスなどの季節イベントに沿ってプログラムを実施。交流スペースの積極的な活用をおこなう。

H30年度 アーツナビゲーター研修

■概要

子どもから大人までのアーツ前橋を訪れた人たちと一緒に、気づいたことや感じたことなど自由に対話しながら作品鑑賞していく、ボランティアを募集し、育成研修を行う。

研修では、対話による作品鑑賞の意義や、ファシリテーションの方法、作品や作家情報の調べ方、ガイドプランの作成を学ぶ。研修を経て一定のレベルに達すると、アーツナビゲーターとして「おしゃべりアートデイズ」で来館者対応を行う。

平成25年度から平成28年度までは、学校連携プログラム「おしゃべりアートツアー」で団体来館する児童を対象としていたが、平成29年度から展覧会会期中に一定期間を設けて、対象を広げて実施している。

■研修後の活動

- ①対話による作品鑑賞プログラム「おしゃべりアートデイズ」で来場者への鑑賞をサポート
- ②学校団体の鑑賞サポートや、子どもを対象としたギャラリーツアーのサポート

■本年度の研修期間

7月15日から3月24日まで 6回

■自主研修

おしゃべりアートデイズ前に受講者同士で日程調整して実施

■おしゃべりアートデイズ *本年度は3展覧会で実施予定

「時をつなぐ」展 8/20、21、23、24、25

「岡本太郎と『今日の芸術』」展 12/3、4、6、7、8、9

「コレクション展」(タイトル未定) 3/18、19、21、22、23、24

■参加者数

15名 (内訳：本年度受講者 5名、継続者 10名)

■昨年度実績

受講者数 名 (内訳：新規受講者 名、継続者 名)

おしゃべりアートデイズ 25回 のべ222名参加



受付看視スタッフとの合同研修



研修の様子



「おしゃべりアートデイズ」の様子